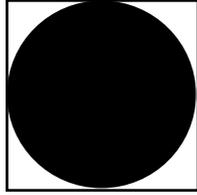


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 169

2023. 9

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 岩崎仁美

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

学びの本質と生成AIについて

公益社団法人 日本美術教育連合理事 結城孝雄

生成AIを巡る論議がひと通り出揃ったようです。センセーショナルに登場した生成AIは、その取り扱いを巡って世界中で議論を巻き起こしました。日本国内では、主に学校教育における評定とそれに影響する使い方に関心が集まり、欧米では、使うことによって個人情報の漏洩と安全性に関心が集まったようです。日本での論議の関心は、生成AIの「ずるい」使い方によって、スキルを習得することなく良い評定を得ようとする態度に対して、評定に影響しない全体的な取り決めと規制を求める要望が教育関係者に向けられました。一方、欧米の関心では生成AIを積極的に使用することで個人情報が安易に吸い上げられて、著作権が侵害される危険性を懸念することに向けられたようです。

このように先進技術を巡る社会状況からも学習と教育の本質がそれぞれの社会で垣間見られました。形式的な学びから脱却できない社会状況では、「便利なもの」上手に使う「ズル」ができない環境を全体的に作りましようとなるのですが、規制とルールで一見平等を確保することに関心が向かいます。「ズル」で一時的に評定が上がったとしても本人の実力やスキルが伴わない学習成果には、意味がないことを本人が自覚する時代に世界が入ったように思います。

自己成長のために何をどのように使うのか、選択と判断を学習者に委ねることがこれからの学びの世界基準になってきています。今回の生成AIの活用之际して、かつて米国の大学で高学歴の親が子どものレポートを代書して成績に影響を与えた事例を紹介していましたが、この事例が本人の目先の成績に影響はしたものの、その後の自己形成には負の影響を及ぼしたと…。

「道具」を自己成長のためにどう使うのか、学習者が自分の頭で考えることが一番重要なことではないでしょうか。「生成AI」という道具も、五感を通した営みの中でどのように取り入れるか、教員側のみならず、学習者自身も含めて、今後様々な提案が生まれることでしょう。

第57回 日本美術教育研究発表会2023 案内

- 日 時：令和5（2023）年10月8日（日）9：00－16：30（予定）
 - 場 所：東洋大学 白山キャンパス（都営地下鉄 三田線 白山駅）
オンライン ZOOM 各設定Room内
※対面・オンラインのハイフレックス方式
 - 参加費等：参加費500円（概要集代として）会員以外の方でも参加できます。
事前申込が必要です。参加者には『日本美術教育研究発表会2023 概要集』を配付します。
 - 主 催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）
 - 後 援：文化庁
- ※最新情報は、日本美術教育連合HPに掲載されますので、ご確認ください。

■第8期理事候補者選出選挙の投票実施要項等■

選挙管理委員会委員長 山 田 一 美

会員の皆様におかれましては、日々、美術教育発展のため、また、日本美術教育連合の活動等にご尽力、ご協力いただきまして感謝いたしております。

さて、連合理事の改選の時期となりました。第8期（2024（令和6）年度・2025（令和7）年度、2年任期）の理事候補者選出選挙を下記要項によって実施いたします。投票用紙は、本年12月上旬に正会員の有権者の皆様に郵送されます。定款により、得票数の多い順に理事候補者5名を選出します。なお、運営委員は得票数などを参考にして理事会が選出します。

今日、男女共同参画社会の実現が強く求められています。男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」（男女共同参画社会基本法第2条）です。つきましては、本法人の理事候補者選出選挙に際しても、男女共同参画社会への推進が可能となるよう、会員のみなさまのご配慮をお願い申し上げる次第です。

投票実施要項等

1. 投票期間・投票方法

2023（令和5）年12月上旬（投票用紙受取日）～2023（令和5）年12月31日（日）消印有効【約3週間程度】

以下の投票実施要項に従い、投票用紙に記入し、返送用封筒に同封して郵送する。

2. 投票実施要項

- ①同封の投票用紙（理事候補の被選挙人名簿）から15名以内を選び、それぞれ会員名の前の数字を○で囲んでください。16名以上○で囲んだ票は無効とします。なお、白票（○印の無い票）は有効とします。
- ②理事については、再任を妨げません。
- ③投票用紙は、理事長印のあるものに限りです。理事長印の無いものは無効となります。
- ④選挙人（投票の有権者）は、9月1日現在において2年以上の会費滞納がない本法人正会員とします。
- ⑤投票用紙は同封の茶封筒（何も書いていない封筒）に封入し、その封筒を選挙管理委員会の宛名書きのある封筒に封入のうえ、ご返送ください。

3. 開票（選挙管理委員会）

- ・実施日：2024（令和6）年1月中旬頃
 - ・会場、立会人：調整中
 - ・開票結果の報告：2024（令和6）年1月21日（日）の第7回理事会・運営委員会、及び「ニュースno.170」2024.4
- 以上

研究局より

■第57回 日本美術教育研究発表会2023 実施案内■

日本美術教育連合理事・研究局運営委員長 結 城 孝 雄

- 開催日時：2023（令和5）年10月8日（日）9時－16時30分
（予備室の使用無き場合16：00終了予定）
- 開催形式：対面とオンラインによるハイフレックス形式
- 会 場：東洋大学 白山キャンパス（都営地下鉄 三田線 白山駅）
オンライン ZOOM 各設定Room内
- 参加費等：参加費500円（概要集代として）事前申込みは必要、会員以外の方でも参加できます。
『日本美術教育研究発表会 概要集2023』を配布します。
- 主 催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）
- 後 援：文化庁

発表者の皆様へ

今回、対面・オンラインのハイフレックス方式となりますが、発表に際しては、対面、オンラインともにZoomアプリを通して行っていただきます。事前のテストroom開設

- 事前の試験実施：2023（令和5）年10月1日（日）午前10時－11時
各room設定者（研究局 A－小林・B－竹内・C－山田・D－藤井・E－笠原）が設定したroomにて発表者の各10分以内
- ◆音声テスト・プレゼンテーションテスト・通信量確認・カメラテストの実施
- ◆配布資料があれば 配布テスト
- ◆もし、日程が合わない場合は、発表者の別途対応
- ◆発表者には メールにて accessコードを連絡差上げます。
- ◆当日、発表中にアクシデントが起きましたら、予備室を用意しておりますので、再発表が可能です。
主催者側と協議の上、スケジュールを決定します。
- ◆当日、投稿論文（12：20－12：50）についての説明会があります。必ず、ご参加ください。

参加者・発表者の皆様へ

8月16日からPeatixにて 予約開始 オンライン決済 参加費 500円 領収書の有
予約の際に 参加者・発表者皆様には、下記の信義則実行の内容を確認していただき、ご了承の上、ご参加ください。

セキュリティの確保

- アクセス情報を他者に知らせない・発表者の発表データを無断流出しない・参加者の肖像を無断流出させない。

参加者の信義則実行の原則

- Accessコードを他者に知らせない。
- 研究発表の発表資料を無断で画面から記録しない（発表者が許可する場合はこの限りではない）。
- 参加者の肖像を記録しない。
- 発表進行への協力。

発表者の著作権・肖像権の順守

- 発表者は、著作権を順守し、肖像権を尊重した発表を実施すること。
- そのために使用する画像、データ等、著作権・肖像権に抵触しないことを必ず事前に確認すること。
参加に際しては、これを承認されたものといたします。

- 参加者の皆様には、当日までにメールにて、各部屋のaccessコードをお知らせします。
- 開会式はDルームにて9：00より開会しますので、ご参加ください。
- 発表に際して、各部屋に入室されましたら、チャットにお名前・所属、一言をお書きください。
- 発表中のチャットによるご質問は、随時ご記入ください。
- 各会場では、ミュート 無カメラの設定をしております。

■第57回日本美術教育研究発表会2023 発表スケジュール 2023(令和5年)10月8日(日) ■

会場：東洋大学＋ZOOM会議上

主催 公益社団法人 日本美術教育連合 (InSEA-JAPAN)

後援 文化庁

9:00 9:15 移動 9:30	開会式 D会場				
9:30	会場A(理論等)小林	会場B(実践小)竹内	会場C(実践中高)山田	会場D(特支/幼)藤井	会場E(海外/ICT)笠原
9:30 9:55	A-1 美術鑑賞能力の発達段階論から見る中国の中学校美術教育における「鑑賞」概念の構成 筑波大学大学院 劉 栓栓	B-1 スマートフォンを利用した対面授業「図工教育法」におけるe-Learningの活用事例 中村学園大学 姉川 正紀 佐賀市立北川副小学校 姉川 明子	C-1 A/r/tographyによる美術のワークショップ実践者の省察と探求の促進 —水戸美術館の事例分析を通して— 山形大学 地域教育文化学部 廖 曦彤	D-1 イタリアのインクルーシブアート教育の現状調査 —ミラノ・ヴィヴァイオ中学校の場合— 跡見学園女子大学 茂木 一司 広島大学 池田 吏志 星学園短期大学 日伊総合研究所 大内 進 明治学院大学 手塚 千尋	E-1 教員養成におけるものづくりやアートを軸としたSTEAM教育の開発 —コマ撮りアニメーションを題材としたICT活用教育概論・図画工作の連携授業を通して— 鳴門教育大学 家崎 萌 金沢学院大学 向田 識弘
10:10 10:35	A-2 戦後美術教育における言語をめぐる思想と方法論に関する一考察 —「言語論的転回」以後の美術教育の論理を相対化する試みとして— 東京学芸大学 清家 颯	B-2 「図工教育法」における小学校との連携 —学習指導案作成での小学校授業動画の活用— 佐賀市立北川副小学校 姉川 明子	C-2 大学と地域をつなぐ木育活動 —森林ESDと保育者養成の視点から— 東洋英和女学院大学 三上 慧	D-2 知的障害児の描画表現の発達を促す指導について —自閉症児の見立てに着目して— 福島市立瀬上小学校 小野 恵	E-2 モザンビークにおけるJICA海外協力隊の活動の検証と一考察 —アートワークショップを取り入れた国際協力活動の実践研究— 東京造形大学大学院 石田 恒平
10:35 10:55	休憩(20分)				
10:55 11:20	A-3 戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(24) —美術科教科書1956—2021年度2学年ないし2・3学年④「見て表す」学習に関する考察— 山口 喜雄	B-3 図画工作における鑑賞の環境づくりを通して大学生の教科観を深める実践の考察 —題材開発と作品展運営について現場教員と連携する学びの可能性— 帝京大学 大櫃 重剛	C-3 朝鑑賞の取り組みと成果報告Ⅱ 武蔵野美術大学 三澤 一実	D-3 移行期の知的障害特別支援学校における「造形遊び」の可能性 —ライフスキルの向上を視野に入れた重度知的障害のある生徒への教育的支援— 明星大学 佐々木 敏幸	E-3 韓国の2022改訂美術科教育課程：改訂の内容及び方向 春川教育大学 柳芝 英

	会場A(理論等)小林	会場B(実践小)竹内	会場C(実践中高)山田	会場D(特支/幼)藤井	会場E(海外/ICT)笠原
11:35 12:00	A-4 「とらえ直し」と子どもの発達 東洋大学 北澤 俊之	B-4 図画工作・美術における幼小中高一貫カリキュラム構造の検証 —〔共通事項〕を基盤とした附属4モデルの提案— 東京学芸大学 教職大学院 西村 德行 東京学芸大学附属 竹早中学校 杉坂 洋嗣 東京学芸大学附属 小金井小学校 守屋 建	C-4 高等学校美術科におけるグラフィックレコーディング題材の実践 東京学芸大学 横田 浩子 パラレルキャリア 研究所 慶野 英里名 グラフィック コミュニケーター 本園 大介	D-4 家庭における子どもの描画遊び 國學院大学 島田 由紀子	E-4 画像生成AIを使用した表現題材の開発に向けて —中学生美術部によるAI活用の事例から— 育英短期大学 井上 昌樹
12:00 13:30	論文投稿者説明会 12:20-12:50	昼食(12:00-13:30)			
13:30 14:55	A-5 創造主義を支えるシステムの顕在化 —構成教育の継承としての造形遊び— 東京造形大学 小林 貴史	B-5 高精細複製文化財の教育的活用 —図画工作科授業における文化財活用センターアウトリーチプログラムの実践をもとに— 東京造形大学大学院 薦田 梓	C-5 美術科の授業における学級を越えたグループでの学びの形態が持つ可能性 足利短期大学 茂木 克浩 埼玉大学教育学部附属 中学校 小西 悟士	D-5 保育者養成校における科目「造形表現」の検討 —保育学生の苦手意識に着目して— 目白大学 佐藤 牧子	E-5 レゾジョ・エミリア市のアートに基づく教育環境について 福岡女子短期大学 樋口 和美
14:10 14:35	A-6 造形活動における快情動と触覚についての事例研究Ⅱ 東京学芸大学附属 小金井小学校 守屋 建	B-6 STEAM教育の視点に基づく図画工作科と理科の授業デザイン —「知る」と「創る」の循環による実感的な学びの志向— 植草学園大学 畑山 未央	C-6 ファッションについて考える美術の授業は何を生み出したのか 埼玉大学教育学部附属 中学校 小西 悟士 足利短期大学 茂木 克浩	D-6	E-6 国際バカロレア美術科MYPにおけるIDU実践と教員間の連携 —敷き詰め題材を実践した教員達の視点から— 東京学芸大学教職 大学院 小島 菜緒子 東京学芸大学教職 大学院 福田 真子 東京学芸大学附属 国際中等教育学校 嶽里 永子 東京学芸大学附属 国際中等教育学校 高田 慎之佑 東京学芸大学 笠原 広一
14:35 14:55	休憩(20分)				

	会場A(理論等)小林	会場B(実践小)竹内	会場C(実践中高)山田	会場D(特支/幼)藤井	会場E(海外/ICT)笠原
14:55 15:20	A-7 イメージの接続性におけるリアリティと経験的な諸相に関する一考察 —“映像表現における内在的なインターフェイス”を視点として— 熊本大学 赤木 恭子	B-7 児童の主体性を引き出す図画工作授業実践の研究(5) —低学年の表現活動について(2)— 沖縄カトリック小学校 矢澤 聡	C-7 美術教育における生成AIの活用 —保育者養成課程での領域「表現」の授業分析から— 中部学院大学 短期大学部 小室 明久	D-7 英語発表 A Phenomenological Study of Female Character Creating Experience: Female's Female Drawing 女性キャラクター創作経験の現象学的研究：女性の女性デッサン Minjae, Seo (Researcher, HeadLab in Hanyang University) ソ・ミンジェ(漢陽大学校ヘッドラボ研究員) Sunah, Kim (Professor in department of Applied Art Education, Hanyang University) キム・スナ(漢陽大学校応用芸術教育学科教授)	E-7 イタリアの創造的教育手法とその展開 —モンテッソーリ、ムナーリ、レッジョ・エミリアの教育の比較— 東京成徳大学 藤田 寿伸
15:35 16:00	A-8 図画工作科「見て描く絵」の題材観の再考 —奈良市(市展)と東京都(都展)の比較分析を通して— 奈良市立柳生小学校 竹谷 摩維子	B-8 図画工作科「見て描く絵」の題材観の再考 —奈良市(市展)と東京都(都展)の比較分析を通して— 奈良市立柳生小学校 竹谷 摩維子	C-8 美術教育における身体感覚イメージの有用性についての一考察 —運動感覚イメージを用いた授業実践を通して— 東京学芸大学 教職大学院 森本 将希	D-8 英語発表 Reconceptualizing Museum Docents Based on Historical Considerations 歴史的考察に基づくミュージアム・ガイドの再概念化 Presenters' name: Liu, Zhao-yu / Sunah Kim リュウ・チャオユ, キム・スナ Affiliation: Department of Museum Education, Hanyang University, Korea Position: Ph.D. candidate / Professor 漢陽大学校 大学院博士課程博物館教育専攻 漢陽大学校	E-8 秋田&フィンランドの「視覚美術・工芸」教育交流展の実践報告(4) —教育交流展の変遷と取り組み内容の深まり— 秋田公立美術大学 尾澤 勇
16:00	予備室：アクシデントの際に再発表していただきます。何もなければ、この時刻より閉会式となります。				
16:00 16:15	閉会式 D会場				
16:25	閉会				
16:30 18:30	懇親会				

■第57号 日本美術教育研究論集 2024■

【投稿及び掲載要項】

研究論集編集委員長 立川 泰史

投 稿 要 項

- 投稿ならびに掲載の条件： 第57回日本美術教育研究発表会の発表者は、『日本美術教育研究論集第57号』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(7)の条件を全て満たしたものに限り、(1)投稿原稿の題目(タイトル語句)ならびに内容が研究発表会の発表論考と同一であること。(2)投稿原稿の内容が、未発表かつオリジナルなものであること(重複投稿の禁止)。(3)投稿原稿の内容が、投稿された各群の内容として適合していること。
I群(理論・実践研究論文)…理論的・実践的な実証に基づいた独創的な知見を含む論文。
II群(実践研究報告等)…さまざまな教育現場におけるすぐれた実践を報告するもの。
III群(研究ノート)…将来の研究につながる問題の提起ならびに先行研究や事例の紹介。
- (4)投稿原稿において、投稿規程にある書式、分量等が守られていること。
(5)掲載料を期日(2023年11月3日)までに納入済みであること。
(6)作品の図表・画像・VIDEO映像等の著作物及び撮影した写真等に係る著作権や肖像権は、投稿者が事前に著作権者・出版社・所有者・本人または保護者等の許諾を得ていること。引用文献は、脚注に「著者・著書名・発行所・出版年・頁」の順で出典を明記すること。
(7)研究論集編集委員会による総合審査において、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。
※今回、InSEAアジアを通じて英語発表を受け付けました。次年度より国内からも英語発表を検討します。
- 論文査読： I群(理論・実践研究論文)・II群(実践研究報告等)・III群(研究ノート)ともに、複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での総合的な審議を経て、投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、編集委員会による「論評」を、研究論集〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式： I群・II群・III群ともに、本文/図版(写真・表・図等)及び、I群のみ必須の「英文サマリー」を含め、下記の《書式・文字数》を厳守して下さい。
1頁分の基本書式は、A4・横組・2段組、23字×44行×2段組=2024字とします。
但し、第1頁の1行目から2段取り(1段組に統合)で「題目(副題)、所属、氏名」(その英文表記・ローマ字表記も含む)を記載し、本文は、1頁目の10行目から2段組で書き始めます。また、原稿では共通の「項立て・見出し番号」として、以下の番号・見出し語のみとします。
大項目 1. 2. 3. [全角数字]…、中項目(1)(2)(3)…、小項目 ①②③…。
- 掲載料： I群・II群・III群ともに掲載料は、一般(給与を得ている内地留学生等を含む)15,000円、院生・学生8,000円です。
8頁(III群のみ6頁も可)を原則。2頁増すごとに6,000円を加算(奇数頁でも、余白頁を含めて2頁増として計算)。10頁では、一般21,000円、院生・学生14,000円です。
頁数の上限は、12頁です。その場合で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。
カラーページが必要な場合は、1頁につき12,500円を加算します。
抜き刷り(一律50部)は、8頁モノクロで7,000円です。2頁増ごとに2,000円を加算します。(抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。)
掲載料は下記口座に納入し、送金証明書(利用明細書のコピー等)を投稿論文に同封して下さい。
・口座記号番号：00170-1-86036(右寄せで記入) 郵便振込です。
・加入者名：公益社団法人 日本美術教育連合
・ご依頼人：〒郵便番号・住所・氏名・電話番号・所属機関
・通信欄：例)掲載料15,000円(一般、8頁)+増頁分6,000円(2頁増の場合)=21,000円(計10頁)
「抜き刷り」を希望の場合は、その旨明記し、必要な金額を加算してください。
※掲載に至らない場合は、納入した掲載料の内5,000円(院生・学生3,000円)を引いた金額を返金します。

〈投稿原稿〉11/3(金)消印有効 レターパック・プラス(赤限定)

- 投稿メ切： 2023(令和5)年11月3日(金)消印有効。I群・II群・III群とも次の①～③をご提出ください。
①原稿(正1部と副3部、合計4部)、②投稿エントリーシート、
③送金証明書(利用明細書のコピー等を、投稿エントリーシートの指定枠内に貼付のこと)
投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。
但し、研究論集編集委員会が査読後に修正を求めるときは、この限りではありません。
発行日は、2024(令和6)年3月31日を予定しています。
- 送付先： 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学 家政学部 児童教育学科 結城孝雄 宛
- 詳細連絡： 研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程・場所を二次案内で確認して下さい。
- 問合せ先： 研究論集編集委員会 研究論集編集委員長 立川泰史：042-782-9811(代)
tachikawa@kasei-gakuin.ac.jp(東京家政学院大学)

事業局より

■造形・美術教育力養成講座2023■

日本美術教育連合理事・事業局運営委員長 三 澤 一 実

造形・美術教育力養成講座では「越境し拡張する美術」をコンセプトに、対面による講座が可能となった本年度は「体験が生み出す新たな視点」をテーマに全3回の連続講座を開催します。

※詳細及び申込み方法はホームページ、Peatixに等で公開しますので随時ご確認ください。

Peatixの日本美術教育連合をフォローして下さい。

<https://peatix.com/group/7506961/view> →



■第1回「プロに学ぶ写真表現との出会い」

日時 令和5年11月11日（土） 13：00～15：00

場所 武蔵野美術大学

定員 30名（オンライン10名）

参加費 一般3,000円（1,500円） 会員1,500円（1,000円） 学生1,000円（対面のみ）

内容 APA（公益社団法人 広告写真協会）は、全国造形教育連盟との共催で始めた「図工・美術授業にカメラを」の取り組みが今年で14年目を迎えます。今回の講座はAPAの取り組みの様子を紹介していただくとともに、ワークショップでは一眼レフカメラを使って写真撮影の基本的な知識と技能を身に付けていきます。

※対面参加カメラ貸し出しあり。オンラインは各自で用意してください。

講師 鈴木英雄・栗栖誠紀・小口隆志 公益社団法人日本広告写真家協会 学校教育事業部

第2回『「ひらめき」をもたらすSTEAMの学びの環境ーパナソニックセンター AkeruE アルケミストプログラムの取組み〔仮〕』

日時 令和5年12月上旬 13：00～15：00

場所 東京都内大学または施設を予定

定員 20名（対面開催のみ）

参加費 一般3,000円 会員1,500円 学生1,000円

内容 2021年にオープンしたAkeruE（パナソニックセンター東京）は、STEAM教育を基盤とするサードプレイスです。前半は自らエデュケーターとして運営に携わる鈴木氏にAkeruEのコンセプトや取組み、背景にある教育観についてお話いただきます。後半は、ミニワークショップとディスカッションを計画中です。

講師 鈴木順平 unworkshop主宰／AkeruE プログラムディレクター

第3回「新しい美術館との出会い～更新し続ける美術鑑賞」

日時 令和6年1月20日 13：00～15：00

場所 東洋大学（予定）

定員 40名（対面開催のみ）

参加費 一般3,000円 会員1,500円 学生1,000円

内容 国立美術館本部に設置された国立アトリサーチセンターで日本の新しい美術館教育について活動されている一條氏を迎え、アートカード体験、対話的な鑑賞体験、鑑賞素材BOX使ったの授業案（活動案）を考える体験等をワークショップ形式で行います。また、同センターの活動や今後の美術館の在り方等について同氏による講演により、これからの美術館との豊かな関係性について考えていきます。

講師 一條彰子 国立アトリサーチセンター ラーニンググループリーダー

■造形美術教育フォーラム2023

造形教育フォーラムでは、造形美術教育を通して、今、そしてこれからの時代をどのように捉えていくべきかを、教育的視点と芸術的視点の2方向から共に考えていくシンポジウムを企画します。11月以降に開催予定。（無料）

詳細はホームページ及びPeatixに公開します。

国際局より

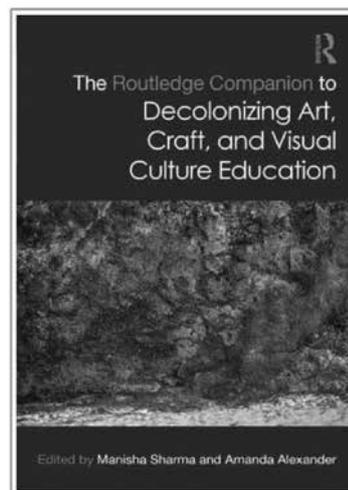
■ InSEA情報 (ホームページから) ■

日本美術教育連合理事・国際局運営委員長 西村 德行

InSEAには80以上の国や地域から会員が参加しています。日本の会員数も多く、8月のある日にホームページ (<https://www.insea.org>) を訪れた国別一覧では、アメリカに続く2位でした。ここではホームページに掲載された情報から、いくつかご紹介します。

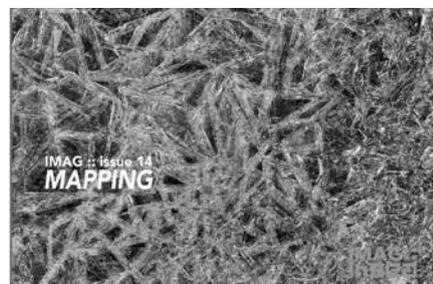
□『アート、クラフト、視覚文化教育を脱植民地化する』

本書はRoutledge社から出版されたInSEAの推薦書です。アート、工芸、視覚文化教育が、いかに社会的想像力を活性化させ、平等と正義に基づく行動を引き起こすかを示しています。特に本書では、現代アートの世界における脱植民地化について、学問分野の垣根を越えて、アートに関わる横断的な理解を提供します。なおInSEA会員は、ウェブサイトのMembers Reading Spaceから必要なコードにアクセスすると20%の割引で購入できます。



『アート、クラフト、視覚文化教育を脱植民地化する』表紙 (InSEAホームページから)

□美術教育ヴィジュアルジャーナルIMAG14号「マッピング：私たちの道を見つける」が2023年3月に発刊されました。アートを通して教育に携わる人々に、マッピングがどのような機会を提供するのか、豊富な事例をもとに読者に問いかけます。IMAGはオープンアクセスで、InSEAホームページからダウンロードできます。なお本連合の佐藤真帆先生が編集を担当されています。

IMAG 14号 表紙
(InSEAホームページから)

□『Relate North #9』2022年12月に出版されました。北極圏と北方諸国の芸術と探求の分野で何が起きているかについて、多様で刺激的なスナップショットと8つのエッセイで紹介されています。北方4か国を代表する16人の著者によって記されており、これらの地域における現在の調査と実践について知ることができます。InSEA会員は、ホームページからダウンロードできます。

Relate North #9 表紙
(InSEAホームページから)

□InSEA世界評議会2023-25とInSEA地域評議会理事会2023-25の役員が選出されました。InSEA世界評議会アジア地区評議員には片桐彩先生が新しく選出されました。おめでとうございます！

事務局より

■事務局便り■

事務局長 畑山 未央

□会員の異動（敬称略）

〈退会者〉なし

〈入会者〉慶野英里名氏・本園大介氏・生井亮司氏・向田識弘氏・大内進氏・高田慎之佑氏・嶽里永子氏・福田真子氏・森本将希氏の9名の方の入会が8月27日開催の理事会・運営委員会にて承認されました。これからどうぞよろしく願いいたします。

□10月8日（日）に第57回日本美術教育研究発表会2023を開催いたします！

来る10月8日（日）、第57回日本美術教育研究発表会2023（文化庁後援）を今年も開催いたします。エントリーいただきました会員のみなさまにおかれましては、まことにありがとうございました。

本年度は対面とオンラインのハイフレックス形式にて実施予定とし、38件の発表申込みがありました。日々の実践の中で児童生徒の姿をもとに紡がれた実践報告、理論的・科学的考察から組み立てられた理論研究、国内外の美術教育の動向など、多彩な発表が期待されます。会員のみなさまにおかれましては、ぜひ会員外の方もお誘いいただき、本研究発表会を盛り上げていただきますようお願い申し上げます。なお、参加費として概要集代500円を戴いております。運営上の経費としてご理解下さいますよう、お願いいたします。

□令和5年度（2023年度）会費納入のお願い

本年度会費納入のお願い

令和5年度会費 6,000円 を 納入してください。

※（公社）日本美術教育連合の会計年度は、毎年4月1日から翌年4月末日までです。納入期限が過ぎておりますので、まだお納めでない方はお早めの納入をお願い申し上げます。

【郵便振替】

（公社）日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

【ゆうちょ銀行以外の金融機関（ネット銀行を含む）からの送付先】

銀行名：ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

- *同封の振り込み用紙をご利用ください。（恐れ入りますが手数料はご負担ください。）
- *当連合からお送りする振込み票には、確認のために次年度分の納入会費が記載されています。
- *過去3年以上会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合「除名」という対応をとらざるを得ません。ぜひ納入にご協力ください。なお今回のお願いと行き違いで、すでに納入済みの方には失礼をお許しください。

□お問い合わせ先：公益社団法人日本美術教育連合 事務局 畑山 未央
〒264-0007 千葉県若葉区小倉町1639番3 植草学園大学発達教育学部
TEL：043-233-9306（研究室直通）
E-mail：m-hatayama@uekusa.ac.jp